

2019 年度第 4 回（通算第 105 回）

## 山口国際文化化学研究会

■ いつから老人？ — アジアの大学生が抱く高齢者イメージと自己老年像 —

■ 発表者 国際文化化学研究科 教授 <sup>キム ヘウォン</sup> 金 恵媛

「昨日の子どもは今日の大人であり、明日の祖父や祖母なのである。」と言われても大学生が自分の老年像をイメージすることはそれほど簡単ではありません。しかし、現在の 10 代の半数が人生 100 年を生きると推計されています。「退職後の 30 年余りを生き抜くためには 2000 万円ほどの貯金が必要」というニュースが気になる主な理由としては、自分と関わりのあるお金の話という認識、長生きに対する負担感が挙げられるでしょう。

世界保健機関(WHO)は「高齢化は、友人関係、仕事上の付き合い、隣人や家族など、他者との関係の中で起きるもの」で、「高齢者が均質的な集団ではなく、年齢とともに個人の多様性が拡大していく傾向にある」と指摘し、「すべての年齢層のための社会」として「アクティブ・エイジング社会」を提唱しています。大学生にとっては確かにリアリティに欠ける話かもしれませんが、現実的な対策として世代間協調が強調されています。

本報告では、アジアの大学生が抱く老人イメージ及び自己老年像に関する調査結果を紹介します。高齢社会への関心、世代間関係の特徴と自己老年像との関連についての気づきを共有します。さらにアクティブ・シニアの社会参加活動に関するインタビュー内容を手掛かりに、ライフコース的視座についてもお話したいと思います。

■ 日 時 2019 年 11 月 27 日（水曜日）16 時 25 分より

■ 場 所 北キャンパス B202 教室

■ 主 催 山口県立大学大学院国際文化化学研究科

（一般参加可）

教員世話人 山口 光 / 院生世話人 辻本梨紗、王曾芝、木谷 曜子、下川 まつゑ